

## 42【街の散策からの気づき発見】

## 武里地区散策

会員 K.T.

春日部市教育員会・『春日部市文化財マップ』を参照した9の地区区分で、9つ目になる武里地区を散策した。武里の地名は、明治22年(1889)に8つの村が合併し、「武蔵野の里」を略して武里村の村名が付けられた、という。

「一ノ割駅」を出発点に自転車でゆっくりサイクリング散策をする。一ノ割の地名は、江戸時代に年貢の負担を均等化する目的で、耕地を一定期間毎に村人同士で交換する「割地制度」の土地制度にあり、土地を「一ノ割」・「二ノ割」と分けていた事に由来する。駅名は東武鉄道が地名から命名した。

(1). 一ノ割駅(春日部市一ノ割1丁目1 / 2024年平均乗降16千人/日)

↓ 開業 大正15年(1926)10月1日

(2).一ノ割香取神社(春日部市一ノ割1丁目30-4)

↓ 創建不祥 ご縁起記によれば、天正年間(1573~92)に現在の地に移転

(3).圓福寺(春日部市一ノ割1丁目30-1)・浄土宗

↓ 起源 鎌倉時代 1185~1333)末期、文禄元年(1592)開山、といわれる。

(4).備後須賀稻荷神社(春日部市備後西5丁目5-1)

↓ 創建 鎌倉時代 建暦元年(1211)春日部氏が建立した、と伝えられる。

(5).勝林寺(春日部市備後西4丁目13-5)・浄土宗

↓ 創建 戦国時代(1467~1573) 元亀元年(1570)

(6).大場香取神社(春日部市大場799)

↓ 創建 室町時代(1336~1573) 文安3年(1446)に勧進

(7).大畠香取神社(春日部市大畠230-1)

↓ 創建不祥 大畠村が大場村から分村の際、大場香取神社から分霊と推測

江戸時代から大畠に約380年伝わる念仏踊り、埼玉県指定無形文化財「やったり踊り」が毎年7月に奉納。

(8).西光寺(春日部市大畠177)・浄土宗

↓ 創建 安土桃山時代 文禄年間(1592~96)と伝えられているが、天保2年(1831)火災により文書等焼失し、記録不祥。「やったり踊り」では西光寺からお囃子と「練り込み」行列が大畠香取神社へ向う。

(9).武里駅(春日部市大場450 / 2024年平均乗降14千人/日) 開業明治32年(1899)12月20日

(参考:春日部駅 開業 明治32年8月27日 / 2024年平均乗降64千人/日)

東武ホームページによると、「武里駅の現在の駅は、大正2年(1913)に移転され、昭和44年(1969)に

橋上駅舎で営業を開始。駅名の由来は、武里村の地名からと思われる。」、とある。

武里地区を散策して『この地域も古い歴史を残している。』と、思った。武里地区は「武里団地」のイメージが私には強くあった。武里団地は日本の高度成長期の頃、旧・日本住宅公団により、昭和41年(1966)に入居が開始された団地で最盛期には、2万人以上が居住していた。入居開始から59年が経過した現在、市の広報によれば、2024年11月の入居者は7千人前後に減少、高齢化率は50%に近い値になっている、という。

現在の武里団地の高齢化は、日本の高齢化社会の未来を先取りしている。建物の老朽化で、9街区のうち、2街区・7街区・9街区が解体された。市のホームページで、「武里団地の概要」を読むと、いろいろ未来への構想は、あるようだ。高齢化先端地域で「住み続けられる町づくり」のモデル事業となる事を期待したい。

さて、大畠地域のユニークな民俗芸能「やったり踊り」の歴史は江戸時代、大畠村と備後村が不毛の土地を争い、相撲の決着で勝利した大畠村の人々が「ヤッタリナー、ヤッタリナー」と勝ちどきをあげながら踊ったことが起源、という。約380年続く民俗芸能として受け継がれている。現在は「やったり踊り保存会」が設けられ、踊り手は「小学校1年~3年」、「小学校4年~中学生」、「若衆」の3つのグループがあるらしい。地元のコミュニティが次の世代を巻き込み、続いている民俗芸能は持続可能な伝統継承の在り方だろう、と思う。



一ノ割駅



勝林寺



一ノ割香取神社



大畠香取神社



圓福寺



西光寺



備後須賀稻荷神社



武里駅